※令和４年度以降入学生用

学校番号	406

令和８年度　国際文化科

教科	国際文化	科目	コミュニケーション国語Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	テスト式国語常識の総演習（修訂三版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・三年生は進路決定の重要な時期です。自己 PR 文が書けるようにワークを使って文章を書くことに慣れていく授業を行います。また進路が決まる頃にはことわざや古典の知識など教養を身に付けることを意識して授業を行います。
・語彙を増やし、表現力の向上を目指すとともに進学先から課されるレポートなども自ら意欲的に取り組めるようになりましょう。
・小テスト等を行いますので、しっかり取り組むようにしましょう。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

［知識及び技能］：履歴書や自己 PR のある程度の形式を知る。漢字やことわざなどを多く身に付ける。
［思考力、判断力、表現力等］：会社や学校から求められる書類を適切に処理できるように、その形式や思考力を伸ばし、適切に思いや考えを表現することができる。
［学びに向かう力、人間性等］：ことわざや四字熟語の知識によって自分を内省し、自分を高めることができる。またすべての知識が履歴書などの社会で生きていくための知識であることを意識する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	漢字の成り立ちや部首などの分類を知り、漢字を体系的に理解している。 四字熟語や慣用句などの意味を知っている。 名作の最初の一部を読んで作品名を答えることができる。 履歴書やお礼状など社会生活に必要な文書の形式を知る。	日常会話では出てこない難易度の高い漢字を使って文章を書くことができる。 履歴書やお礼状などを時候の挨拶や難易度の高い言葉を使って書くことができる。 与えられた評論文に対して自分の主張を文章で表現することができる。	履歴書やお礼状、自己 PR を書くために、この授業で学ぶ語彙について意欲的に質問をしたり、それによって表現したりする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	基本編 第1回～第14回	a[読]漢字の基本的な知識を持ち、対義語や類義語の知識がある。 ことわざや慣用句などの意味を理解している。 文学史でよく出てくる作品の最初の部分だけを見てその作品名と作者名を答えることができる。 b:[書]対義語や類義語などをつかって短くても自分の考えを論理的に表現することができる。 ことわざを使って文章を作ることができる。 c:[書]ことわざを知ることで自分の生活に関する教訓を得る。またそれを知ることで自分を見つめなおし、自己 PR などに使えるかどうか考えようとする。	小テスト及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察
2学期	発展編 第1回～第6回 表現編 第1回～第17回	a[書]話し言葉と書き言葉の違いを知る。 原稿用紙の書き方のルールを知る。 履歴書の形式を知る。 b:[書]話し言葉が書かれている文章を見て、書き言葉に直すことができる。原稿用紙のルールにのっとって文章をつづることができる。自分の希望を表現しつつ履歴書の志望動機を書くことができる。 c:[書]自分の進路に応じて自分に必要な書類をしあげようとする。	小テスト及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察
3学期	発展編 第7回～第15回	a:[読]日本文学に関する素養を身に着ける。 引き続き語彙を増やすことに努める。 b:[書]短歌などに触れて自分の気持ちを句にのせることができる。 敬語の用法を正確に把握して、正しく使うことができる。 c:[書]お礼の手紙など今まで学習したことを通じて社会で必要なことを書こうとする。	小テスト及び定期考査	記述の確認及び定期考査	行動の観察

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※年間の各領域時間数

・書くこと　…　（　65　）時間

・読むこと　…　（　10　）時間